

「ワクワクする建設業へ」

群建協総会

青柳会長体制が続投

週休2日制に絞り調査提言

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は17日、前橋市内の群馬建設会館で2017年度の定時総会を開催した。役員改選期にあたったが、青柳会長の続投が決まった。17年度の行動指針は「ワクワクする建設業」「入ってみたい建設業」から「入ってよかった建設業」へとし、働き方改革（週休2日制）に絞った調査提言活動や受発注者間での「限界工事量の理念」の共有促進、銘板の設置拡充活動の展開などの取り組みを進め、災害などに備え人員や機械を維持できる工事量の確保、担い手の確保・育成、生産性の向上などの諸課題に取り組み。



青柳会長

総会には大澤正明県知事をはじめとした多数の来賓が隣席。青柳会長は冒頭「16年度は中山間地を中心とした豪雪、沼田市内での土石流災害などが発生し、地域にとって必要な事業量の確保、災害対応について差し迫った課題が浮き彫りとなった。人口減少社会を見据えた制度変更など、17年度の行動指針へ具体的に反映し、提言要望活動として発信していく」と述べた。



多数の会員が出席した

成するための方策として「新・3本の矢」として「やりがい」「報い」「見通し」を16年度に引き継ぎ、青柳会長は行動指針について「解決しなければいけない課題があったとしても、会員企業がワクワクする気持ちを持っていなければ、次の事業のステップに展開できない。わかりやすい言葉で建設業の変化を伝えていきたい」と話した。

このほか、許認可制度や経審を含めた企業評価制度といった建設業を取り巻く諸制度について、これからの人口減少社会を見据えた形へ制度変更

「やりがい」では、技術者のモチベーション向上などを目的とした構造物などへの銘板設置拡充の提言を国土交通省や関東地方整備局、県などに行う。

このほか、生産性の向上に対する動きとして、会員企業が技術革新の波に乗り遅れないよう、利根沼田テクノアカデミー

との連携による地域ネットワークの中からICT土工技術者を育成する取り組みも行う。「見通し」では、業界が抱える諸課題への対応に向けて必要となる経営基盤の安定化へ、災害などに見張るくんによるSNSを活用した災害情報の迅速な発信や除雪業務体制の確立など建設業としての社会貢献運動も進めていく。

ワクワクする建設業

「入ってみたい建設業」から「入ってよかった建設業」へ

「新・3本の矢」

「やりがい」
ワクワクする職場

- 銘板設置拡充活動の展開
- 許認可制度の見直し促進
- 経審を含めた企業評価制度の確立
- 産学官連携会議
- 新卒生等も対象とした現場実習
- 新卒生及びその保護者を対象とした説明会
- 新入社員研修会・新入社員アンケート調査
- 建設業人材確保・育成に関する協議会
- 「群馬県建設業協会」の改訂
- マスコットキャラクター「くんくん」
- 女性活躍からの職場環境改善

「見通し」

受発注者間での「限界工事量の理念」の共有促進

- 事業継続のための研修・啓発活動
- 民間委託活動等
- 新・企業情報共有システム「くんくん見張るくん」
- Twitter発信
- 経審連携推進
- 経審連携14年の確立
- 建設業関係者等に関するアンケート調査

魅力あふれる建設業の実現

ワクワクする仕事

働き方改革（週休2日制）に絞った調査提言活動

- 真正な工期設定・生産性向上の促進
- 員外注の促進し、関係外注への対応
- etc—
- 建設工事の採択性に関するアンケート調査
- 職工生活改善会
- 三生会交流協会
- 地域ネットワークの中からICT土工技術者を育成（利根沼田テクノアカデミーとの連携）
- 建設業関係者向け研修に関する調査

ワクワクする未来

- 受発注者間での「限界工事量の理念」の共有促進
- 事業継続のための研修・啓発活動
- 民間委託活動等
- 新・企業情報共有システム「くんくん見張るくん」
- Twitter発信
- 経審連携推進
- 経審連携14年の確立
- 建設業関係者等に関するアンケート調査

「報い」 **「見通し」**

行動指針2017

群建協・県建設事業協組

群馬建設会館改築へ

夏までの一般競争

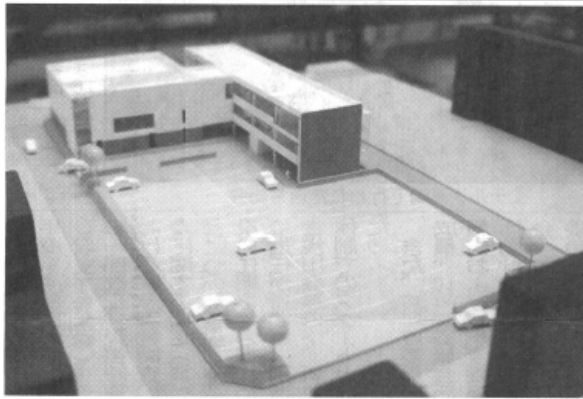
6月から既存施設解体

群馬県建設業協会と群馬県建設事業協同組合は2017年度、前橋市元総社町2-5-3にある群馬建設会館を建て替える。工事は、既存のホ

ル棟を6月ごろから解体し、夏ごろに本体工に着工する見通しで、解体と本体工に分け一般競争入札での発注を予定している。入札参加条件など詳細は、現在詰めているところ。設計はプランツアソシエイツ・群馬県建築設計センターJVが担当しており、詳細設計を進めている。

新施設はホール棟を解体し、その跡地と敷地内2階部分に285坪の大会議室および1230坪のホワイエを設置する。会館は建設から44年が経過し、施設・設備の老朽化とともに抜本的な耐震化対策が必要となったことから建て替えを計画。安心して快適に過ごせる施設、技術やデザインを体感できる施設、地域と共存し親しまれる施設の3つをコンセプトとしている。

群馬県建設業協会の青柳剛会長は新施設について「18年度には協会設立70周年という節目の年となる。今後の建設情報の発信拠点となるような会館としていきたい」と話した。



新施設の完成模型